

予 算 要 求 資 料

令和3年度当初予算 支出科目 款：農業費 項：農業振興費 目：主要農作物対策費

事業名 麦・大豆生産性向上対策推進事業費

(この事業に対するご質問・ご意見はこちらにお寄せください)

農政部 農産園芸課 米麦大豆係 電話番号：058-272-1111 (内 2863)

E-mail： c11423@pref.gifu.lg.jp

1 事業費 2,400 千円 (前年度予算額：1,900 千円)

<財源内訳>

区 分	事業費	財 源 内 訳							
		国 庫 支出金	分担金 負担金	使用料 手数料	財 産 収 入	寄附金	その他	県 債	一 般 財 源
前年度	1,900	0	0	0	0	0	0	0	1,900
要求額	2,400	2,100	0	0	0	0	0	0	300
決定額									

2 要求内容

(1) 要求の趣旨 (現状と課題)

水田フル活用を推進するために必要な作物である麦・大豆は、実需から安定供給と品質向上を求められている一方で、単収が伸び悩む地域があるとともに、品質や年次変動が大きいいため、需要に応じた生産拡大と収量・品質の高位安定化が必要となっている。

(2) 事業内容

○麦・大豆増産対策チームの設置

関係各課等との連携による、収量や品質等の生産性向上対策の方針検討

○麦・大豆の収量向上と高位安定生産対策

<麦>

- ・産地と実需が連携する岐阜県麦民間流通地方連絡協議会への参加
- ・耐病性や収量性が期待される新品種「タマイズミR (小麦)」、「カシマゴール (大麦)」の大規模実証と、実需と連携した加工評価の実施
- ・単収が伸び悩む地域での栽培技術の検証

<大豆>

- ・土壌分析や土壌硬度等の調査による土壌改良の推進
- ・麦後大豆栽培における栽培技術改善の実証 (施肥量の増加、播種時期の前進化、作業の省力化 等)

- ・新たな大豆品種（サチユタカ A 1、九州 1 8 2 号等）の実需と連携した加工評価の実施

（３）県負担・補助率の考え方

- ・県内麦・大豆産地における需要を捉えた生産拡大と安定供給の実現のため、県負担は妥当である。
- ・国の持続的生産強化対策事業のうち、戦略作物生産拡大支援事業を活用（補助率；国費 10/10）

（４）類似事業の有無 無

3 事業費の積算内訳

事業内容	金額	事業内容の詳細
旅費	488	業務旅費、費用弁償
需用費	655	消耗品費、燃料費
役務費	26	通信運搬費
委託料	768	品質分析、加工適性分析、土壌分析
使用料	280	バス借上、農機レンタル
備品購入費	133	土壌分析機
その他	50	報償費（講演会謝金）
合計	2,400	

決定額の考え方

4 参考事項

（１）各種計画での位置づけ

新たな「ぎふ農業・農村基本計画」

Ⅱ 安心して身近な「ぎふの食」づくり

②水田農業における安定供給体制の構築と新たな展開

- ・麦、大豆、加工業務用野菜の推進

（２）国の状況

「食料・農業・農村基本計画」（令和 2 年 3 月 31 日閣議決定）

第 3 食料、農業及び農村に関し総合的かつ計画的に講ずべき施策

2. 農業の持続的な発展に関する施策

（６）需要構造等の変化に対応した生産基盤強化と流通・加工構造の合理化

③ 米政策改革の着実な推進と水田における高収益作物等への転換

- イ 麦・大豆

事業評価調書（県単独補助金除く）

新規要求事業

継続要求事業

1 事業の目標と成果

（事業目標）

・需要に応じた麦・大豆の品種導入、安定生産対策を実施し、県内の生産量を増加する

（目標の達成度を示す指標と実績）

指標名	事業開始前	指標の推移		現在値	目標	達成率
		(H28)	(H29)	(前々年度末時点)		
麦の生産量	7,770t (H28)	9,393t (H29)	8,531t (H30)	10,973t (R1)	11,520t (R7)	95%
大豆の生産量	3,070t (H28)	3,400t (H29)	1,440t (H30)	3,220t (R1)	5,040t (R7)	56%

○指標を設定することができない場合の理由

（前年度の取組）

- ・事業の活動内容（会議の開催、研修の参加人数等）
- ◆麦の生産振興
 - ・大麦品種「カシマゴール」の大規模実証と加工評価の実施（1ヶ所）
 - ・収量・品質向上に向けた施肥体系の実証（15ヶ所）
- ◆大豆の生産振興
 - ・新たな大豆品種の加工適性評価の実施（3品種）

（前年度の成果）

・前年度の取組により得られた事業の成果、今後見込まれる成果
 「カシマゴール」については収量性が高く、麦茶用途に適することを確認した。
 新たな大豆品種「サチュタカA1」「九州182号」「里のほほえみ」の加工適性について、実需者と連携して評価を実施した。

2 事業の評価と課題

(事業の評価)

<ul style="list-style-type: none"> ・事業の必要性（社会経済情勢等に沿った事業か、県の関与は妥当か） ○：必要性が高い △：必要性が低い 	
(評価) ○	米の消費量が減少する中、水田の有効利用を図るため、麦・大豆を転作作物として推進する必要がある。
<ul style="list-style-type: none"> ・事業の有効性（指標等の状況から見て事業の成果はあがっているか） ○：概ね期待どおりまたはそれ以上の成果が得られている △：まだ期待どおりの成果が得られていない 	
(評価) ○	需者のニーズを踏まえた品種の導入や品質向上技術の確立は、食料の安定供給や生産基盤の強化にも繋がり、本事業の有効性は高い。
<ul style="list-style-type: none"> ・事業の効率性（事業の実施方法の効率化は図られているか） ○：効率化は図られている △：向上の余地がある 	
(評価) ○	計画や進捗状況、取組成果について関係機関と検討を図るとともに、必要に応じて、生産者団体等と連携し、技術確立の効率化に努める。

(今後の課題)

<ul style="list-style-type: none"> ・新たな品種や栽培技術をスムーズに取り込んで頂くため、生産者団体等と連携し、技術のPRや普及導入を進める必要がある。
--

(次年度の方向性)

<ul style="list-style-type: none"> ・実需者から支持される麦・大豆の高位安定生産拡大と新技術の導入 ・大豆単収及び品質の年次変動を克服できる栽培技術の確立普及
--

(他事業と組み合わせて実施する場合の事業効果)

組み合わせ予定のイベント又は事業名及び所管課 組み合わせる理由や期待する効果 など	【○○課】
--	-------